

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 岡山大学 学部・研究科等名 経済学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目：I 教育の実施体制

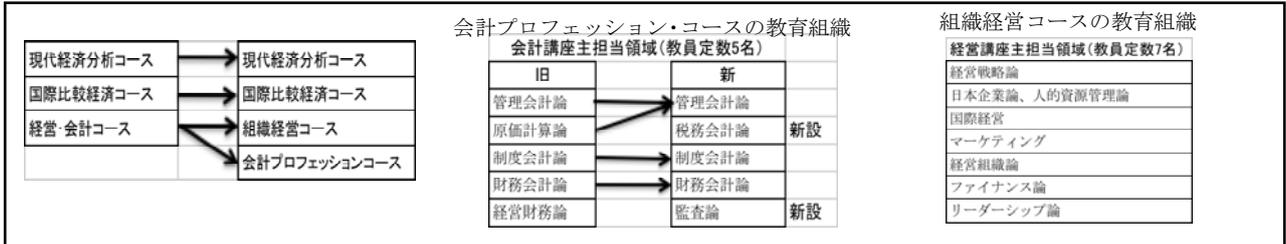
2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名：基本的組織の編成

平成 20 年度に、経営・会計コースを組織経営コースと会計プロフェッション・コースに再編した。これは、一方で公認会計士・税理士や日商簿記 1 級を目指す学生が増加し、こうした学生のために会計教育の充実を図る必要があったこと、他方で、学部の経営学教育を大学院社会文化科学研究科前期博士課程の組織経営専攻（MBA コース）に連携した教育として整備する必要があったことから実施した。

会計プロフェッション・コースではカリキュラムの再編を行い、管理会計ポストとは別に存在した原価計算論を管理会計に統合し、新たに税務会計論ポストを設置し、また経営財務論ポストを監査論に変更することを決定した。教育スタッフについても実務経験を重視し、税務会計論については国税庁から適任者を派遣してもらい、財務会計論には金融庁から採用した。（資料 1）

資料 1：コース再編の概要



(出典：経済学部資料及び学生便覧資料)

○顕著な変化のあった観点名：教育内容，教育方法の改善に向けて取り組む体制

平成 20 年度に、10 年後の教育体制の完成を目指して教育内容・カリキュラム編成を根本的に再検討する教育システム WG を立ち上げ、各コースのカリキュラムの見直しと、見直しに従った採用人事を開始した。会計プロフェッション・コースにおける原価管理論の税務会計論への変更，経営財務論の監査論への変更はその成果の一つである。（資料 2）

このような改革を行う理由は、従来の教員ポストには教育科目の観点から重複ポストが少なからず存在し、従来通りの後任人事を進めていたのでは時代が必要とする教育科目を学生に提供できないことから、重複ポストの整理と、相対的に重要度の低い教育科目を時代の要求する新たな教育科目に切り替える必要があると考えたことにある。平成 22 年度からは全学方針に従ってファカルティ・コーディネータとコース代表からなる FD 委員会が教育内容・カリキュラム及び教育方法の改善に取り組む体制になる。

資料 2：教育システム WG の平成 21 年度の取り組み

6月11日	コース専門科目の選択必修化と専門基礎科目の指定科目化
7月23日	会計プロフェッションコースの教育科目の検討
12月10日	現代経済分析コースの教育科目の検討
1月20日	国際比較経済コースの教育科目の再編
3月11日	組織経営コースの教育科目の検討

(出典：経済学部資料)

